

多高通信

第132号 平成28年7月26日発行



さとく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

白熱！球技大会！

■球技大会実行委員長

3年3組 佐藤遥(七ヶ浜中出身)

今年度の球技大会は、2日目から雨が降ってしまい、1日目から続ける予定だったドッジボールを、急きよ卓球に変更するという異例の大会でした。これまでの大会では初めてのこと、大会の雰囲気下がってしまっているのではないかと心配していましたが、予想以上の盛り上がりとなりました。それ以外の競技でも、白熱した試合が見られました。特にサッカーでは雨の影響でグラウンドの状況が悪かったにも関わらず、泥だらけになって闘う姿がとても素敵でした。会場設営や審判など、協力していただいた部活動の皆さん、運営を手伝ってくださった先生方、たくさんの方のおかげで最高の球技大会を作りあげることができました。来年度も素晴らしい球技大会になることを期待しています。



卓球も盛り上がりました！



インターアクトクラブ

創立記念祝賀会

■3年1組 岩佐彩音

(多賀城中出身)

6月25日、ホテルキャッスルプラザ多賀城で、宮城県多賀城高等学校インターアクトクラブ創立記念祝賀会が行われました。祝賀会には、多賀城市長をはじめ



調印文書の披露

とする多くの皆様にご出席いただきました。私達多賀城高校インターアクトクラブは多賀城ロータリークラブが提唱する初めてのインターアクトクラブで、生徒全員が会員となっています。祝賀会では、他校のインターアクトクラブの方々と話す機会があり、活動内容などを聞くことができました。主な活動として奉仕活動をしているクラブが多く、海外留学をした人も多くいました。これから私達も多賀城ロータリークラブや先輩クラブの方々の力をお借りしながら、今まで以上に奉仕活動やボランティアを行い、地域に貢献できるように努めていきたいと思っています。

合唱部 ニホンジンと共演！

みやぎいいものまつり

6月26日、勾当台公園で開催された「みやぎいいものまつり」に合唱部が参加しました。「希空」と「なりのトトロ」を演奏し、最後には主催者であるニホンジンプロジェクトの方々と一緒に合同演奏を披露し、たくさんの方の応援をいただきました。

■副部长 3年6組 田中海里(多賀城中出身)

本番前にニホンジンプロジェクトの方と円陣を組んで「一致！団結！」と気合を入れてからステージに向かいました。ステージ前にはたくさんのお客さんがいらっしやり、少し緊張しましたが、私たちの演奏に合わせてリズムに乗ってくださった方も多く、楽しいステージになりました。本番終了後、お子さんと一緒のお母さんに声かけられ、私たちのトトロの曲を聞いてお子さんがとても喜んでくれたというお話をしてくださる嬉しく思い、これからの活動への励みにもなりました。これからも今回のようなイベントを含め、さまざまな場所で私たちの演奏を見たり聞いたりしてくださる方々を楽しませるような活動を続けて行きたいと思っています。



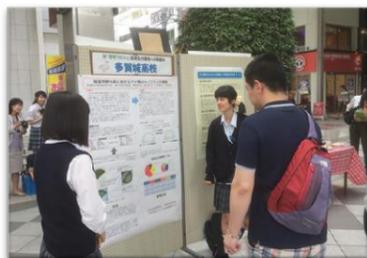
尚絅学院大学主催

「環境マルシェ」に参加しました

■参加生徒の感想

6月26日、サンモール一番町商店街アーケードを会場に開催された環境PRイベントに、昨年度浦戸巡検生

物産の代表として参加してきました。環境をテーマとした他の高校の取り組みや、多くの企業の展示発表を見ることができ、水や食品といった身近なものから、企業やNPO法人の環境への取り組みなど、多様な面から環境について考えることができました。また、今回の高校生によるポスター発表において、私達が研究した「浦戸諸島におけるマツ類のハイブリッド調査」への取り組みを評価していただき、「環境構想学科賞」を受賞することができました。



マツのハイブリッド調査については、今年の浦戸巡検に参加する後輩たちが引き継いでくれるということなので、私達には不十分だった点や遺伝子調査など、さらなる発展的な研究になることを期待しています。

ハワイ大学 交流会

6月28日、ハワイ大学教育学部マノア校の教員や学生さん合わせて18名が来校しました。授業見学や生徒との交流を通して、日本の教育実践研究の一つとすること、そして今後の交流について検討する目的です。

本校の概略を説明した後、1・2年生の授業を見学していただきました。「社会と災害」における図上訓練の授業や、英語のALTとのTTの授業などに興味を持ったようです。2年生の教室で「英語」の授業に参加していただきました。1グループに1名の学生等が入り、iPadを使用してハワイの紹介をしてもらいました。グループ毎に内容を発表し、授業の最後にそれぞれのグループ毎に内容を発表し合い、自分たちが得た知識を共有していました。



7時間目には2年生希望者とハワイ大学関係者の座談会が行われました。ハワイ大学の方々からは高校生活の様子や、授業の様子などの質問がありました。私たちからは、ハワイ大学の生活の様子や、観光地と

座談会の様子



座談会が行われました。ハワイ大学の方々からは高校生活の様子や、授業の様子などの質問がありました。私たちからは、ハワイ大学の生活の様子や、観光地と

してのイメージが強いハワイとは違った面についてお聞きしました。

■矢吹桃子(2年7組 高崎中出身)

「外国に行ったことがありますか？また、それはどこですか？」と聞いたとき、「ハワイに行ったことがある」と答える人は少なくないと思います。ハワイでは日本語は通じないし、そこまで遠くはないので、身近な国だと感じられるかもしれません。私自身、この座談会に参加することが決まったとき、「英語は苦手だけどハワイなら日本語で話してもなんとなく通じるだろう」と考えていました。しかし、ハワイ大学には、生まれてからずっとハワイで育った人もいればブラジル出身の人もいました。様々な国からたくさんの方が通っていて、文化の多様性を感じることができました。また、ハワイの中でも、英語を話す人とハワイ語を話す人がいることを知り、全く異なる文化を持つ人が同じ地域に住んでいるということを実感することもでき、とても良い経験になりました。

亘理町防災キャンプ 3逢隈小

7月2日、亘理町教育委員会生涯学習課が主催する「亘理町防災キャンプ 3逢隈小」に、防災委員の1年生2名とボランティア同好会の3年生2名が参加してきました。

本校生徒は逢隈小学校3年生から5年生の約30名を対象に、「地震・津波について学ぶ時間」の講師を担当し、地震・津波の発生の仕組みと危険性、身の守り方について、スライドを使って説明しました。クイズを出したり、身の守り方を一緒に考えたりと工夫して説明することができました。説明の最後に「今日、新しく学んだことがある人」と質問したところ、参加したほとんどの小学生が手を上げてくれました。逢隈小の児童はもちろん、初めて小学生に説明をした4人にとっても貴重な学びの時間となりました。



■1年2組 清野寧音(高崎中出身)
私は今回の防災キャンプで初めて小学生とワークショップをしました。分かりやすく話せるか、みんなが思っていたことをちゃんと発表してくれるかなど、心配なことがたくさんありました。しかし、実際はみんな楽しそうに考えてくれたので、とても嬉しかったです。何度も練習してよかったです。子供たちには、今回学んだことを誰かに教えたり、自分の行動に生かしたりしてほしいです。とても良い経験ができました。



生徒間交流行事 被災地訪問

熊本に行ってきました!

7月4、5日、熊本地震募金で集めた義援金を寄付させて頂いた熊本県立東稜高等学校、御船町立滝尾小学校に、生徒間交流に行ってきました。

東稜高等学校では、避難所として2000人の避難者を受け入れ、自治会との協力により避難所運営はスムーズに行われたことを教えていただきました。今年度、授業は遅れて始まり現在も体育館を使用できない状況ですが、生徒の皆さんは元気に活動していました。生徒間交流では、生徒会長の福永君を中心とした生徒会執行部の皆さんと交流しました。はじめは緊張していた皆さんでしたが、徐々に打ち解け、お互いの学校文化について話が盛り上がりました。



交流会の様子

ホールを仕切って授業を行います



被災地の皆さんは、厳しい環境の中でもしっかりと部活や勉強に取り組んでいました。私たちの義援金が少しでも力になればと思いましたが、今後も生徒会の活動として様々な被災地支援を行っていききたいと思います。

報道番組ディレクターさん来校

熊本の様子を聞きました

7月11日、NHK仙台放送局放送部・報道番組ディレクターの堤早紀さんに、熊本地震の様子を

話していただきました。

今回の熊本地震の特徴や、震災直後に南阿蘇へ入ったときの移動、食料、宿泊の御苦労、災害現場でのDMAT(災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team)の活躍などについてお話しをいただきました。今回のお話で、私たちがニュースや新聞で知る被災地の姿とは違った面も知ることができました。



「東日本大震災の教訓を活かすことはできたのか」については、活かすことができた場面も、そうでない場面もあったことについてもお話しいただきました。災害はその種類や場所によっても異なるので、その対処の仕方も異なることから簡単には比較が難しいそうです。罹災証明や避難所運営では宮城県の行政関係者の助言が活かされていたこと、医療チームやリハビリテーションといった対処が早かったことなどは、東日本大震災の経験が活かされた場面だったそうです。また、「受援」という援助を受け入れる姿勢や心の大切さについても知ることができました。

「海猿」今年も来てくれました!

海上保安庁 水難安全教室

7月12日、本格的な水のシーズンを前に、宮城海上保安部・巡視船くりこま潜水士の方々を招き、「海上保安庁水難安全教室」を本校プールで行いました。

まずは寸劇が披露され、誤って海に落ちた場合に慌てて服を脱ぐとすると溺れてし



まうことから、慌てずに「背浮き」で救助を待つ大切さを教えていただきました。また、着衣のままプールに入る「着衣泳」や空のペットボトルを使っての「背浮き」、水に落ちると膨らむタイプの新型の救命胴衣の見学・体験を行いました。

長島復興副大臣が 来校しました!

7月13日、長島忠美(ながしま たけよし)復興副大臣が来校され、授業見学と特別授業を行っていただきました。長島副大臣は新潟県中越地震で被災した新潟県古志郡山古志村の最後の村長で、平成16年10月、村長2期目の時に中越大震災に遭遇、村長として中心被災地であった旧山古志村にて全住民避難および復興の陣頭指揮にあたった方です。



「くらしと安全A」授業見学の様子

「自然科学と災害A」での避難所を想定した菌の培養実験や、「くらしと安全A」での妊婦体験や乳児を抱き上げる体験をご覧いただきました。2つの授業とも副大臣は生徒の中に入って、いろいろな質問をなされながら見学されていました。

また、災害科学科の1年生を対象に行われた特別授業では、旧山古志村での経験や、災害についての考え方、地域コミュニティの大切さについて話していただきました。生徒から出された多くの質問や意見についても、その一つひとつに丁寧にお答えいただきました。

放課後には、生徒会執行部の役員などを交えた意見交換が行われ、産官学それぞれの立場の助言者として島田昌幸



特別授業

様(株式会社ファミリア代表取締役)、石塚直樹様(一般社団法人みやぎ連携復興センターチーフコーディネーター)、今村文彦教授(東北大学災害科学国際研究所所長)、鈴木洋様(県教育庁教育監兼教育次長)、鈴木学様(多賀城市市長公室長兼震災復興推進局長)の5名の方々にも参加していただきました。本校の取り組みの報告に対し、「意見・ご助言をいただき、現在計画を進めている東日本大震災メモリアル行事についても皆様から大きな期待と協力についてのお言葉もいただきました。

副大臣の授業を受けて思ったことは子どもや高齢者などの年代に関わらず、すべての世代の人々が災害について、それぞれが考え、次に災害が起こったときに、どのようにすれば被害が拡大しないかを話し合う必要性があることを改めて実感しました。

また、災害科学科1期生である私たちは、いつ起こるか分からない災害が目の前で起きた時、私たちが毎日の授業で学んできた知識を駆使し、避難を促進させる最初の一人として行動し、多くの人々の期待に少しでも応えられる頼もしい存在になりたいと思えました。副大臣の行動力に学んで、自らが考え判断し、率先して行動できる様になりたいです。

「社会と災害」国際航業特別授業

7月16日、国際航業株式会社技術本部の鈴木雅人氏が来校し、災害科学科の授業「社会と災害」において、航空写真の活用についての特別授業を行っていただきました。

航空機やドローンによる撮影画像を、等高線や地形図と合わせて3D処理することで様々な情報が得られたり、地上から海上までシームレスな地形情報を得ることで様々なシミュレーションが可能になっているとの話をいただきました。後半は地図と航空写真を用いたハザードマップづくりを行い、様々な地図・情報を組み合わせることで、



今までには分からなかった危険箇所を把握することが出来ることを学びました。秋にはJAXAから人工衛星画像の活用についても学ぶので、これらを組み合わせる学習して行きたいと思っています。